

教育だより

News for Education OITA

No.86
2016 SPRING

編集・発行
県教育庁 教育改革・企画課

おおいだ

TEL 097-506-5421 FAX 097-506-1791
E-mail oita-ed@pref.oita.lg.jp



活躍する高校生たち

伊勢志摩サミット・ ロゴマーク最優秀賞

鶴崎工業高校3年 うつみや しほ 宇津宮 志歩さん



努力の成果

最優秀賞に選ばれたと聞いたときは、嬉しいというよりも不思議でした。それほど最終候補に残った他の作品はすばらしいものばかりでした。この作品では、日本の文化や自然、伝統をどのように表現し、まとめるかを工夫しました。7つのサミット参加国を表す桜の花びらを均等に配置して平等であることを示し、それらが伊勢志摩の青い海でひとつにつながる様子を表しました。産業デザイン科で学ぶ中で、コンビニでお菓子のロゴマーク等にも目が留まるようになりました。この作品もそもそも科の生徒全員に出された課題でした。何事においても目の前のことを中途半端にせず、一生懸命に取り組むことが、なりたい自分に近づく一番の方法だと思っています。

全国高等学校ビブリオバトル2015 決勝大会 優勝

芸術緑丘高校2年 あべ のぞみ 阿部 希望さん

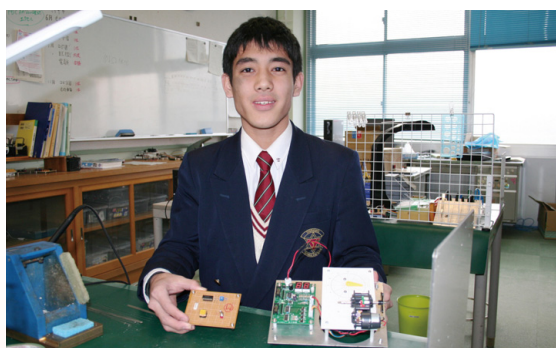


もっと多くの人を楽しませたい

たくさんの人に本の話聞いて楽しんでもらいたい。5分で紹介するのに最適なのは何かと考えて筒井康隆さんの「残像に口紅を」を選びました。台本通りに自分の言いたいことだけを言うのではなく、ほとんどアドリブでしたが、ちゃんと聴衆を見ながら話したことが良かったのだと思います。見る人がいないと美術は成立しません。そこはビブリオバトルとも共通しています。美術科として作品を制作する上で、読書から得た知識が現在とても役立っています。いろんなジャンルの本を読んでおくと、どんな知識もいずれ、必ず自分のためになります。今後も小説、映像等様々なことを通して、表現の幅を広げていきたいと考えています。

第15回高校生ものづくりコンテスト全国大会 電子回路組立部門 厚生労働大臣賞(優勝)

鶴崎工業高校3年 にしだ ゆうま 西田 悠真さん



世界に向けての第一歩

全国1位を目標に日々練習に励んできました。先生方や仲間たちに助けられながら、平日は放課後約5時間、休日は約9時間、電子回路のハンダ付けやプログラム作成の練習に取り組みました。大会ではすごく緊張しましたが、その積み重ねと皆の支えのおかげで優勝できました。幼い頃、故障したビデオレコーダーを分解して内部の回路をカッコいいと思ったことが原点で、体験入学で競技ロボット等に魅力を感じ、鶴崎工業高校に進みました。電力から電子まで幅広く学ぶ中で、自分に合ったものを見つけられたと思います。日本の「ものづくり」を担う技術者になれるよう頑張ります。皆さんも好奇心を大切に、色々なことに挑戦して自分の目標を見つけてください。

第15回高校生ものづくりコンテスト全国大会 電気工事部門 厚生労働大臣賞(優勝)

大分工業高校3年 あめ かわ かおる 雨川 薫さん



「ものづくり」としてのこだわり

優勝を報告した時に親がとても喜んでくれて、すごいことを達成した実感が湧きました。この大会では、制限時間内で正しく動作する回路を作るのはもちろん、各部品を取り付ける角度、水平、垂直、密着、対称等、仕上がりの美しさが求められます。一番こだわったのは金属管加工のバランスでした。最も難しく失敗しやすいその作業を1回で確実に仕上げられるよう毎日徹底して練習しました。自分は1年生の最初の実習で、クラスで一番早く課題を完成させることができましたが、重大欠陥が2つもありました。自分の短所も素直に認め、周囲の方々の助言に耳を傾けて、その克服に全力で取り組む。その素直さが「ものづくり」としての成長の秘訣だと思っています。

『当たり前』は当たり前じゃない ～福島修学旅行から得たもの～ 高田高校

高田高校は平成27年度修学旅行の研修先を従来の長野県から福島県に変更しました。東日本大震災後、県内の公立高校では初の試みでした。12月の旅行に向けて生徒たちは、「震災で福島は何が変わったのか」について、班別に様々なテーマを選んで事前学習に取り組みました。

旅行初日に、現在大学のキャンパスを借りて3校合同で学校生活を送っている福島県立双葉高校・双葉翔陽高校・富岡高校の生徒たちと交流会を持ち、代表班が事前学習を元に発表を行いました。

2日目の夕食後には地元の新聞社の方をホテルに招き、風評被害等の現状について語っていただきました。4日目には実際に津波の被害を受けた薄磯地区を訪れ、バス毎に語り部の方から震災当時の様子について話をうかがいました。続いて被災した水族館アクアマリンふくしまを訪れ、復興に向けてどのように歩んできたか、映像を用いながら説明を受けました。同じ「今」を生きる現地の人々の姿に、生徒たちは何を感じたでしょうか。4人の生徒にお話を聞きました。

福島修学旅行行程概略

第1日	12月14日(月)…午前中福島へ移動 14:00～ 福島県立双葉高校・双葉翔陽高校・富岡高校の3校生徒との交流会
第2日	12月15日(火)…終日スキー研修 19:30～ 講演 福島民友新聞社社長 五阿弥宏安氏
第3日	12月16日(水)…終日スキー研修
第4日	12月17日(木)…午前中被災地訪問後、東京へ移動(デイズニランド) 10:00～ 薄磯地区訪問 (バス毎に語り部による解説) 11:00～ 水族館アクアマリンふくしま 講演
第5日	12月18日(金)…東京自主研修後大分へ

おのみずき 小野 瑞季さん

交流会では「津波で全部流されて、自分は今何も持っていないことに気付いて、今ならどこにでも行けるし、何でもできると思うようになった」という2年男子の言葉が胸に刺さった。あれ程の被害を受けてなお明るく前向きに進もうとする姿勢に、こちらが勇気付けられた思いがした。新聞社の方の講演では「楽しいから、おいしいから、という理由で福島に来てほしい」という言葉が印象的だった。故郷を思う気持ちは誰でも一緒なのだった。ネット等の否定的な情報だけを見て福島を敬遠している人は、実際にそこに住んで生活している人がいることを忘れてほしい。

きりむら けんた 桐村 健太さん

アクアマリンふくしまでは、震災当時の映像を見ながら説明を受け、当たり前にある普通の日常がいきなり壊れていく恐ろしさをあらためて痛感した。また、再オープンまでにはとても多くのボランティアの人たちの努力があったことが分かった。ホテルでの講演でも、農業に携わっている方々が懸命に頑張っているのに風評被害で苦しんでいる実情を知った。福島は、一部に本当に危険な地域はあるが、全部が全部そうではない。農産物の検査は他県よりも厳しいくらいなので安心して食べてほしいし、福島についてもっと知ってほしいと思った。

たなか しゅうじ 田仲 修児さん

自分が交流会で話した2年女子は、津波で友だちを亡くして、もっと仲良くしておけばよかったと後悔していた。自分は以前から友だちを大切にしよう心がけてきたし、他人を傷つけるような言動はしないようにしてきたが、さすがに明日からもう二度と会えなくなるようなことがあるなどと考えたことはなかった。今回、被災地を実際に訪れて、現地の人たちの話を聞いたのは、自分にとってとても貴重な体験になったと感じている。本当にいつ何が起きてもいいように、一日一日を当たり前のように過ごさず、充実したものにしていきたいと思った。

ときえだ かほ 時枝 佳穂さん

交流会で高田高校の発表を見て、現地の2年女子から「いっぱい調べてくれたのはわかるし嬉しかったけど、やっぱり自分たちの立場になってみないとわからないと思う。この発表をするために調べただけでなくこれからもっと調べてほしい」と言われ、とても考えさせられた。私たちにできること、福島の人たちが求めていることは、「福島を忘れないこと」なのではないかと思った。自分たちが福島に行って得たものはとても大きいので、自分の実体験を、若い世代、次の世代に伝えていきたい。修学旅行で福島に行く選択肢を考える学校がもっと増えたらいいと思う。



防災活動で文部科学大臣表彰 白杵高校

白杵高校が平成27年度学校保健及び学校安全表彰(文部科学大臣表彰)を受けました。昨年度に国の防災教育実践モデル校に指定され、地域と連携して組織的に防災教育に取り組んできたことが高く評価されました。東北被災地視察に参加した3年生2名と、白杵市総合防災訓練の避難所運営で活躍した2年生にお話を聞きました。



写真①被災地視察



写真②被災地視察



写真③避難所運営訓練



写真④避難所運営訓練

かわの ななせ 川野 七星さん(写真①左)

「物が壊されていくことより人の心が壊されていくことの方が辛い」という言葉が深く心に残った。大震災を経て、自分の命を自分で守ることの大切さを伝え続けなければいけないと思う。気仙沼や陸前高田と地形もよく似た白杵でも海との共存が大切だ。この視察で得た教訓を次の世代の子どもたちへ語り継いでいきたい。

かわの なな 川野 奈々さん(写真①右)

視察で「この場に来てくれるだけでありがたい」と言われ、実際に現地の人と接する大切さを感じた。気仙沼の高校では、「海の近くだからマイナス」ではなく、海が近いからこそ防災意識が高く、普段の訓練に真剣に取り組んでいたため生徒全員が無事だった。合同防災訓練を経て、白杵高校生の防災意識も高まっている。

かわの たいき 川辺 大樹さん(写真③中)

総務班班長として、30分毎に会議を開いて情報をまとめ、次の行動の指示を出した。不定期にやってくる避難者の数と性別を確認するだけでも大変で、造船所の外国人労働者の方が日本語を話せないなど、想定外のことがあったとパニックになった。日頃から地域の方とコミュニケーションを取ることが重要だと思った。

※詳しくは県教委ホームページで [大分県 高校 防災教育](#) 検索

18歳選挙権 県選挙管理委員会からのメッセージ

昨年6月の公職選挙法改正により、選挙権年齢が18歳に引き下げられることを受けて、県教育委員会では1月に「県立学校における政治的教養の教育に関する指針」を示し、政治的教養の教育の充実に取り組んでいるところです。そもそも選挙とは何でしょうか。ここでは、県選挙管理委員会からわかりやすく説明してもらいます。

皆さんは「近くにサッカー場がほしい」とか「横断歩道に信号をつけてほしい」と思ったりしたことはありませんか？ その実現のためには、できれば全員で話し合って決めていくべきです。しかし、全員が集まって話し合うことは難しいことです。まして、県や国となると、全員で話し合うことはさらに難しくなります。そこで、皆さんの思いを実現していく代表者を決める。それが選挙です。選挙は「私たちから集めた税金の使い道を決める人を選ぶこと」と言われます。

このため、選挙が正しい手続で行われ、代表者としてふさわしい人が選ばれる必要があります。

今年の夏の参議院議員通常選挙から18歳選挙権が導入される見込みで、高校3年生の一部は実際に投票を行うこととなります。県や市町村の選挙管理委員会では、高校と連携して選挙出前授業を行い、本物の投票箱等を使った投票体験などを通して、選挙について楽しく理解してもらおう取組を進めています。授業を受けた生徒からは、「投票をしないと自分たちが思っていたことが実現できなくなることがわかった」等の意見をいただいています。こうした機会をきっかけに、私たちの未来を決める選挙について考えてみてはどうでしょうか？



投票体験の様子

H27全国体力調査 小5男女「九州1位」

大分っ子の体力 全国順位が過去最高

「運動好きな大分っ子」の育成に向けて
 ～全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果を踏まえて～

全国の小5・中2を対象とした「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果が文部科学省から公表されました。体力合計点の全国順位は、小5男子8位、同女子10位、中2男子11位、同女子23位となり、いずれも過去最高となりました。

体力合計点から見る全国順位の推移

対象		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
小学校5年	男子	32 (6)	27 (5)	33 (6)	中止	20 (2)	12 (1)	9 (1)	8 (1)
	女子	40 (7)	37 (7)	35 (6)		35 (5)	23 (4)	13 (2)	10 (1)
中学校2年	男子	39 (7)	38 (7)	33 (6)		24 (3)	21 (3)	18 (3)	11 (2)
	女子	43 (8)	46 (8)	45 (7)		41 (8)	41 (7)	36 (6)	23 (5)

※()内の数字は九州順位

文部科学省によると、子どもの体力・運動能力は、生活環境の変化などによる運動の機会減少や生活習慣の乱れなどが原因で、昭和60年頃から長期的な低下傾向が続いているとされています。

着実に体力が向上している大分っ子ですが、詳細を見てみると、日常的に運動する子とそうでない子が二極化しており、中2女子では、体育の授業以外の1週間の総運動時間が60分未満と答えた生徒の割合は全体の約2割を占めています。※右表参照

また、全て全国平均を超えていない「50m走」については、すばやさや力強さなどが主な体力要素であり、その向上に向けた取組を工夫していく必要があります。

子どもの体力と運動実施時間(頻度)及び愛好度は密接に関係しており、今後本県児童生徒の体力をさらに高めていくためには、「運動をほとんどしない児童生徒の割合をいかに減少させていくか」、「運動好きな児童生徒をどうやって増やしていくか」がポイントとなります。

調査項目ごとの平均値の比較

調査項目	握力 kg	上体起こし回	長座体前屈 cm	反復横とび点	シャトルラン回	持久走秒	50m走秒	立ち幅とび cm	ボール投げ m
小5男子	全国	16.45	19.58	33.05	41.60	51.64	9.38	151.24	22.52
	大分県	17.02	20.00	33.68	43.45	55.09	9.39	153.37	24.15
	比較	◎	◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎
小5女子	全国	16.05	18.42	37.44	39.55	40.69	9.62	144.77	13.77
	大分県	16.60	18.81	38.07	41.25	42.10	9.67	146.27	14.92
	比較	◎	◎	◎	◎	◎	▲	◎	◎
中2男子	全国	28.93	27.43	43.08	51.62	85.56	392.63	8.01	194.05
	大分県	29.44	27.40	43.33	53.00	85.56	400.38	8.02	195.63
	比較	◎	▲	◎	◎	◎	▲	◎	◎
中2女子	全国	23.68	23.26	45.53	46.09	58.06	290.03	8.84	167.28
	大分県	23.91	22.40	45.19	46.60	56.97	308.49	8.89	168.37
	比較	◎	▲	▲	◎	▲	▲	◎	◎

※持久走は男子1500m、女子1000m ※◎全国平均以上 ▲全国平均未満

※1週間の総運動時間 60分未満の割合

小5男子	6.0%(6.6%)
小5女子	14.9%(12.9%)
中2男子	5.0%(7.1%)
中2女子	17.8%(20.9%)

※()は全国の割合



高田小学校「一校一実践」

親子で体力アップ!

ご家庭での子どもへの接し方と体力の関係

「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の児童生徒に対する質問紙調査から、以下の取組をしている家庭の子どもほど運動の実施頻度が多く、体力が高いという結果が出ています。

- ◆運動を一緒にする
- ◆スポーツを観戦する
- ◆運動、スポーツの話をする
- ◆生活習慣(食事・運動・睡眠)を改善する

お子さんや自分たちの運動不足解消のためにも、日常生活をリフレッシュするためにも、親子で運動や生活習慣についてできることを考え、「元気アップ」を目指していきましょう。

体力向上に向けた「一校一実践」

本県では、全ての小・中・高校及び一部の特別支援学校において、体力向上に向けた「一校一実践」に取り組んでいます。「一校一実践」は、各学校の児童生徒の実態に応じて、学校全体で組織的・計画的に、見直しを持って体力向上に取り組むものです。

【「一校一実践」取組事例】

学校名	取組名	取組概要
豊後高田市立高田小学校	高小体力チャレンジタイム	朝の時間に、タイヤ転がし、大縄跳び、リレー、遊具遊び等の運動を実施
杵築市立東小学校	体力UP大作戦	休み時間に、(1学期)長縄、(2学期)縄跳びカードを使った短縄、(3学期)県内1周持久走カードを使った持久走を実施
臼杵市立下北小学校	チャレンジプラス1	PTAとの連携により「一家庭一運動」(サイクリング、バトミントン、キャッチボールなど)を実施
佐伯市立鶴谷中学校	鶴谷ウォーキングプロジェクト	年間定期的に城山登りを行い、最終的に3年生で浦江までの30kmウォーキングを実施
竹田市立久住中学校	GO GO TIME	放課後の時間にタイヤ渡り、ミニハードル、懸垂等を組合わせた運動を実施
日田市立三隈中学校	三隈フィジカルアップ	「三隈アクティブタイム」(学年クラス対抗の小運動会や大縄跳び、大声コンテスト等)を実施

新しい県立屋内スポーツ施設の建設

新しい県立屋内スポーツ施設が、大分スポーツ公園内に、平成31年に完成する予定です。武道を中心とした大規模な大会の開催が可能で、県民の誰もが気軽に利用できる施設となります。ラグビーワールドカップ2019の関連施設や2020年東京オリンピック・パラリンピック参加国のキャンプ地として、また大規模災害に備えた広域防災拠点としても活用が期待されています。

- 1 武道場
 - 道場として、①柔道場(2面)、②剣道場(2面)、③副道場を設置
- 2 多目的アリーナ
 - 柔、剣道8面、ハンドボール2面、バレーボール5面、バスケットボール4面の設置が可能
- 3 トレーニング施設
 - 日常の健康づくりや各国代表のキャンプ誘致ができるような施設
 - 授乳や子どものプレイスペースとしてのキッズルーム等を隣接設置



基本設計時点のイメージです

平成28年4月1日から『障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律』が施行されます。

障がいのある子ども達が、より学びやすくなるための配慮を！

公立学校では、合理的配慮(障がいのある人が日常生活や社会生活を送る上で妨げとなる社会的障壁を取り除くために、状況に応じて行われる配慮)が義務になり、私立学校では努力を要する事項になります。

対象

身体障がい、知的障がい、発達障がい、精神障がい(高次脳機能障がいを含む)
*障害者手帳を持っているかどうかは問いません。

合理的配慮とは?

障がいのある人が日常生活などを送る上で妨げとなる社会的障壁を取り除くために、状況に応じて行われる配慮です。一人一人の障がいや学校などの状況に応じて異なります。
(例) 視覚障がいのある子ども→教科書を拡大するなど
聴覚障がいのある子ども→筆談など

ただし、財政上や体制上に過度な負担のない範囲で、実施するとされています。



問い合わせ先/県教育庁 特別支援教育課
TEL 097-506-5539

各教育機関等の春休み企画

県立図書館

県図書へ行こう!本と出会うおはなし会

「小学生のためのおはなし会」

日時/毎月第3土曜日
14:00~15:00
参加費/無料
内容/耳で聞いて楽しむおはなし(ストーリーテリング)
場所/子ども室おはなしのへや
対象/小学生・中学生向け

「土曜日のおはなし会」

日時/毎月第1、2、4、5土曜日
11:00~12:00
参加費/無料
内容/読み聞かせ・おはなしなど
場所/子ども室おはなしのへや
対象/幼児・小学生向け

ペンちゃんFBでもおはなし会や図書館の情報をお知らせしています。ぜひチェックしてください!



おはなし会の様子



QRコード



問い合わせ先/児童サービス担当 TEL(代表) 097-546-9972

県立歴史博物館

平成27年度特集展示「富貴寺大堂の世界」

主要展示品

富貴寺大堂壁画外陣北小壁断片
富貴寺大堂壁画現状模写
富貴寺大堂壁画復元模写(パネル展示)



富貴寺大堂復元模型

*すべて県立歴史博物館所蔵

会期/4月24日(日)まで
開館時間/9:00~17:00
(入館は16:30まで)

休館日/毎週月曜日(祝日・振替休日の場合はその直後の平日)
観覧料/一般 310円(200円) 高・大学生 150円(100円) 中学生以下 無料
※()内は20名以上の団体のお一人様の料金です。
※土曜日の高校生の観覧は無料です。
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方とその付き添いの方1名は無料です。

問い合わせ先/TEL 0978-37-2100

県立先哲史料館

「3・11から5年」特別講座 「大地の歴史と私たちの暮らし — 慶長豊後地震と別府湾の海底地形調査 —」

講座

竹村 恵二氏
(京都大学大学院理学研究科地球熱学研究施設)
「日本列島と大分
— 別府・万年山断層帯と南海トラフ —」

原口 強氏(大阪市立大学大学院理学研究科)
「別府湾に眠る沖の浜の痕跡
— 海底地形が語ること —」

櫻井 成昭氏(県立先哲史料館)
「慶長豊後地震と『語られた歴史』」

シンポジウム
「慶長豊後地震と別府湾の海底地形調査」

問い合わせ先/TEL 097-546-9380



日時/3月11日(金) 13:30~
参加費/無料
場所/豊の国情報ライブラリー
(県立図書館) 2階 視聴覚ホール
施設の駐車場には限りがありますので、当日は公共交通機関をご利用ください。

大分県立美術館

「身も心も! 現代アートに恋い焦がれて」 — 利岡コレクション+大分アジア彫刻展 —

会期/3月13日(日)まで
開館時間/10:00~19:00
※金曜日、土曜日は20:00まで
(入館は閉館の30分前まで)
観覧料/一般500円(300円)、大学生以下無料
※()内は20名以上の団体料金
※身体障害者手帳等をご提示の方とその付添者(1名)は無料

問い合わせ先/TEL 097-533-4500

OPAM 検索

関連イベント

どなたでもワークショップ
3月6日(日) 10:30~14:00~
トークイベント 各日 13:30~15:00
2月28日(日) 出演:彫刻家 森 貴也氏、館長 新見 隆
3月13日(日) 出演:コレクター 二宮 健氏、館長 新見 隆



四谷シモン《天使の羽》1992年
大分県立美術館

高等学校に進学したら・・・ 家庭の教育費負担を軽減するための支援制度があります!

- 申請をしなければ支援を受けることができません。
- 申請手続等は、高等学校へ進学後に学校から案内があります。

「高等学校等就学支援金」【返還の必要はありません】

基準となる所得(市町村民税所得割額が30万4,200円)未満の世帯へは、国から授業料相当額の支援金が支給されます。
*私立学校では、所得の状況に応じて加算支給の対象となる場合があります。

「高校生等奨学給付金」【返還の必要はありません】

市町村民税所得割額が非課税の世帯へ、授業料以外の教育費支援として年額32,300円~138,000円の給付金が支給されます。

問い合わせ先/公立高校:県教育庁 教育財務課/TEL 097-506-5454
私立高校:県生活環境部 私学振興・青少年課/TEL 097-506-3079

楽しい学校生活を過ごしていますか?!

困ったことがあったら一人で悩まないで! 相談する場所はたくさんあります!

24時間子供SOSダイヤル(生徒指導推進室) [電話] 0570-0-78310

ネットいじめ相談(生徒指導推進室) [メール] no-ijime@pref.oita.lg.jp

スクール・セクハラ相談窓口 [電話] 097-534-4366 [FAX] 097-506-1799
(人権・同和教育課) [メール] no-sekuhara@pref.oita.lg.jp

教育行政相談窓口(教育改革・企画課) [電話] 097-506-5411

いじめ・不登校相談 [電話] 097-569-0829/097-503-8987
(教育センター教育相談部) [メール] oita-edu-c.soudan@pref.oita.lg.jp

特別支援教育相談 [電話] 097-569-0232
(教育センター特別支援教育部) [メール] oita-edu-c.tokusien@pref.oita.lg.jp